

教員活動状況報告書

提出日：令和 6 年 2 月 29 日

所 属： 生命環境科学部 臨床検査技術学科

氏 名：高梨 正勝 職位： 准教授

役 職：

I ティーチング・ポートフォリオ

1. 教育の責任（教育活動の範囲）

（教育活動について何をやっているのか：役職担当・主要担当科目リスト（必修，選択）（受講者数）（学部向け，大学院向け）（學理データ活用）

教師として何に責任を負っているかを明確にし，自分が担当している授業科目に関して数行で説明する。（分量の目安：2～5 行（80 字～200 字）（科目表以外））

※分量（字数）はあくまで目安ですので，超えても構いません。内容を優先して下さい。（以下同じ）

基礎専門科目について病理学の基礎から現在注目されている疾患までの幅広い知識や情報を理解する能力を持つ学生を育てることを目標とし、病因を中心とした疾患の発症機構を知ることで、必要な検査や治療法を理解することを目指す。

基礎科学は専門科目を履修する上での土台となるために完全な理解を目指す。卒業研究や病理学特論では病因学を中心とした興味のある疾患に関する内容を探求する能力をもたせることと、研究を通じて専門性を高めるような知識を習得することを目的とする。

科目名	学科・専攻	必， 選，自	配当年次	受講者数
病理学 I	臨床検査技術学科	必修	2 年	約 90
病理学 II	臨床検査技術学科	必修	2 年	約 100
病理検査学実習	臨床検査技術学科	必修	3 年	約 80
病理学実習	臨床検査技術学科	必修	2 年	約 90
基礎教養科学演習（分担）	臨床検査技術学科	必修	1 年	約 120
組織学・同演習	臨床検査技術学科	必修	1 年	約 120
総合臨床検査学演習（分担）	臨床検査技術学科	必修	4 年	約 80
病理学特論	環境保健科学専攻	選択	1 年	3
卒論指導	臨床検査技術学科	選択	2-4 年	約 30

2. 教育の理念（育てたい学生像，あり方，信念）

1. で説明した教育面での責任を基にしながら自分の教育理念に基づいて自分の教育アプローチについてまとめる。(自分の教育アプローチの説明：なぜやっているのか、自らの信念、価値、目指すもの) (分量の目安：8～12行(320字～480字))

臨床検査は幅広い知識と正確な検査結果が求められる。現在の臨床検査分野では検査の自動化や将来AIの導入が想定される中で、時代に対応可能な技術や知識を身につけることが必要と考えている。これには基礎的・基本的な知識・技能の習得、知識・技能を活用することが可能な能力の習得にある。病理学の基となる正常と疾患との差が検査や治療法の指標となるため病気について詳しい知識の習得が必須であると考えている。

3. 教育の方法 (理念を実現するための考え方, 方法)

教育の目的と目標 (これまでの教育経験においていつも行っていること。重要視していること。自分の教育を特徴づける方法) (分量の目安：15～24行(600字～960字))

時代に即した情報や知識を提供するために、専門紙などから最新の情報を講義で紹介し、詳しく説明するようにしている。特に病理学においては分子生物学的な手法を応用した分子病理学的な診断が導入され始め、原理や状況についての紹介を行っている。卒業後の進路で、この分野に関連する検査を担当する場合の土台となることを目的に取り組んでいる。また、それぞれの疾患の発症に関する原理を説明し、その疾患に必要な検査や治療法、その後の経過に必要な検査について紹介し、各臓器の代表的な疾患について知識を習得可能なように講義を行っている。

アクティブラーニングについての取組

講義で紹介した内容や項目について、講義毎に、または数回の講義毎に関連する課題を提示し、その場で回答してもらう。講義の内容の復習とその項目中で重要な箇所を確認する意図を含めた問題を出題している。

ICTの教育への活用

学理を活用し、講義資料を事前に提示する。この資料は病理学の教科書として利用可能ように工夫をしている。

4. 教育方法の改善の取組（授業改善の活動）（分量の目安：15～24行（600字～960字））

現在の授業実践・教授手法をどのように改善していますか。

（①から⑤まで個別に記載又は①から⑤までまとめて記載ください）

①教育（授業、実習）の創意工夫（A～C） B

病理学を含む疾患に関する最新の応報を提示し、さらに、その疾患に関する研究などの情報を提示して、それぞれの病気に興味をもたせるように講義を行った。

②学生の理解度の把握（A～C） C

講義の終盤で行う小試験や質問の内容から判断を行っている。

③学生の自学自習を促すための工夫（A～C） B

講義で使用する資料（スライド）に図や症例の写真を多く取り入れ、印象深いものを心がけている。

④学生とのコミュニケーション（質問への対応等）（A～C） A

講義後の休み時間やメールなどで対応を行っている。

⑤双方向授業への工夫（A～C） B

質問に対する答えを俊敏に行い、メールや学理などを介して返答する場合もある。

※A（十分実施している） B（実施しているが十分でない） C（うまく取り組めていない）

⑥国家試験対策としてどのような取組をしましたか。（V 学科， M 学科の教員の方のみ記載してください。）

4年生に対しては過去10年間の病理学の国家試験の出題率の解析を行い、病理学の領域での学習する重要性を確認させた。

1～2年生に対しては過去の国家試験を講義中に回答させ、現時点の知識で回答ができることを体験させた。

5. 学生授業評価（分量の目安：4～7行（160字～280字））

①授業評価の結果をどのように授業に反映させましたか。

講義資料の学理による事前の提示により予習や復習が可能なようにした。
試験の回数を増やすことで講義内容の理解度を確認した。

②①の結果はどうでしたか。

病理学は臨床検査技師向けに適した教科がないため、細かすぎる点もあったものの資料

は好評だった。成績評価も含めて、小テストなどの単元ごとの試験は評価が良かった。

③ ②を踏まえて次年度はどのように取組みますか。

現行の資料の内容で最重要部分さらにダイジェストしたものを加える。
小テストの回数を増やし理解度を確認する。

6. 学生の学修成果（分量の目安：4～7行（160字～280字））

① 学生の成績向上に資する取組を何か考えていますか。

（参考となる取組については、学内で共有させていただく予定です。）

臨床検査技術学科での到達の目安の一つが国家試験の合格であり、在学中に初年度から国家試験の認識をするような機会の必要性を感じる。特に病理学は1年で履修する組織学を含め、2年で履修が終了してしまう。講義のプログラムの編成の必要性も感じるが、学生自身でも認識を高めるために、1年終了時に組織学、2年生終了時で病理学の国家試験に出題された問題を回答できることを意識させ、各学年で履修の終了した科目に対する国試を受験させることが必要かと思う。

また、科目内での理解不足の部分の小テストなどの結果を解析し、学生個人に対応した補講などの再教育を行う。

さらに、基礎学力不足の学生が多いことが感じられ、徹底的な基礎科目の補講が必要かと思う。特に生物学や化学、英語と言った科目での高校生レベルの学力不足が目にとまるため、1年生において学力別もしくは能力別に分けた教育が必要に思える。

② 教育活動によって得られた学生の成果及び学生・第三者からの評価

病理学で腫瘍に興味を持った学生が、授業とは別に腫瘍の専門書を勧めたところ独自に読むようになった。同様に研究室での学生には基礎知識をつけるために輪読を行い、腫瘍に興味を抱くようになった。

7. 指導力向上のための取組（FD研究会参加状況）（分量の目安：1～2行（40字～80字））

関連する分野に関しては積極的に参加を心掛けている

8. 今後の目標（理念の実現に向かう今後のマイルストーン）

教育活動に関する今後の目標を記載してください。短期的な目標と長期的な目標を分けて記載してもかまいません。（分量の目安：3～6行（120字～240字））

基本的な部分の理解度を高めるため、個別の理解度の解析と指導を行い国家試験合格へ導く。入学生を含めた個人の基礎教科の理解度の解析と個別の対応による知識の習得。

先端科学への理解と興味を抱くような情報の提供と、研究指導を考えている。

9. 添付資料（根拠資料）（※）資料名のみ

※資料については非公開扱いのものもありますので、資料名のみを記載してください。

参考

※ ティーチング・ポートフォリオにおける自己記述を裏付けるエビデンス例

（「実践ティーチング・ポートフォリオ スタータブック」（大阪府立大学高専ティーチング・ポートフォリオ研究会 編）から引用）

（自ら作成するもの）

1. 授業に関するもの

シラバス，小テスト，宿題，レポート課題，試験問題，教材（配布資料，パワーポイント資料など）

2. 教育改善に関するもの

（教育に直接貢献する研究，FD プログラムなどへの参加記録，教育の工夫を示すもの（複数年のシラバス等），教育活動関連の補助金の獲得

（他者から提供されるもの）

1. 学生から

授業評価データ，授業に関するコメント（授業評価の自由記述やメールのやりとり等），卒業生から授業や教育についてのコメント

2. 同僚から

授業参観の講評，作成教材についての意見，同僚のサポート実績

3. 大学／学会等から

教育に関する表彰，教育手法等に関する講演の記録及び招聘の要請書類，カリキュラムやコースの設計などについての評価

（教育/学習の成果）

授業科目受講前と受講後の試験成績の変化，学生の小論文・報告書，学生のレポートの「優秀」「平均的」「平均以下」の例，特に優秀な学生についての記録，指導学生の学会発表などの成果，学生の進路選択への影響についての事実，学生のレポートの改善の軌跡